

文学部国際言語・文化学科（日本語・日本文学コース）

国際言語・文化学科・国語科教員採用試験に向けて

教授 高木 伸幸

国際言語・文化学科では、国語科教員を目指す学生を対象とする教員採用試験勉強会を今年も開催しました。早いもので、今年で10年目に入りました。さまざまな国語試験問題を解き、中学・高校国語の教科専門試験に対応できる学力を身につけていくのが目的です。

平成31（令和元）年度は、2月からスタートし、4月以降は教育実習期間を除いて、7月の公立学校教員採用試験までほぼ毎週行われました。

この勉強会では、過去7年間で、現役で12名、既卒で14名の採用試験合格者を出して参りました（注）。今年度も、現役生では私立高校に1名、既卒生では公立中学校に2名、それぞれ採用試験合格者を出すことができました。

今後も国語教員をめざす学生諸君の夢の実現に向けて活動を続けていく予定です。

注）採用試験合格者数のうち、現役は私立高校と公立中学校の合計、既卒生は公立中学校と公立高校の合計を記しました。また既卒は本学で確認できた人数を挙げています。

史学・文化財学科

令和元（2019）年度 史学・文化財学科の取り組み

教授 松森 武嗣

「別府大学教員採用試験対策勉強会」は、顧問教員のアドバイスを受けながらも、「主体性」「連携」「継続性」の基本方針のもとで、中学・高校教員を目指している史学・文化財学科所属の有意な学生が参加し運営している勉強会です。

立ち上げ11年目である平成31（令和元）年度の活動状況としては、夏休み、冬休みと春休み期間を除いた前・後期を通じて、日本史と世界史を週に各1回、教科書の授業形式（パワーポイント使用も含め）で、メンバー輪番制のもと、日本史では、開国から第二次世界大戦の勃発まで、世界史では、オリエント世界の風土と人々から17世紀の危機と三十年戦争までをやり、知識の定着を目指しました。特に、復習小テストで基礎固めを図り、また評価シートを取り入れることで、授業実践の技能向上に努めました。10名前後の参加者ですが、切磋琢磨して頑張っています。

国際経営学科

令和元年度 国際経営学科の取り組み

教授 高木 正史

2019年度は、3名の4年生が母校での教育実習に赴いた。その準備として、3名に教育実習の前に模擬授業を実施させ、最終的な実践的指導を行った。もちろん、教育実習生は各教科教育法にて模擬授業の経験を有するが、さらに実習生に事前準備をさせることを意図して模擬授業を行ってもらった。また、今年度は、筆者は、実習生のうち1名の教育実習先高等学校に赴き、実習中の実習生に実習の状況を把握した。

国際経営学科で教員免許状を取得しようとする学生は少ないが、その分、少人数で綿密な教育ができるというメリットが学生にはあろう。教職課程の履修は厳しい道のりを歩まなければならないが、教職課程を履修する学生は自らの希望に向けて、一步一步進んで欲しい。

文学部教職課程

別府市立南小学校学習支援ボランティア

准教授 針塚 瑞樹

2017年度から教職課程の学生を中心に別府市立南小学校の「サマースクール」の学習支援ボランティアに参加している。2019年度は以下の期間、8名の学生が参加した。

サマースクール実施期間：2019年8月28日～30日の3日間

参加者：史学・文化財学科2年……1名

3年……2名

国際言語・文化学科2年…1名

人間関係学科3年…3名

発酵食品学科2年…1名

2019年10月より同小学校で毎週木曜日、金曜日に実施されている児童の宿題のお手伝いをする「オワルンジャー」の活動にも、ボランティア参加している学生がいる。「オワルンジャー」の活動は、南小学校の学校運営協議会で、子どもの学力向上のためにできることを学校の先生方と地域住民が話し合っ、提案された活動である。学校に残って宿題をやっている子どもがいることや、なかなか宿題をやってくることができない子どもがいることから、宿題を教えてくれる人と宿題をやる場所があれば良いのではないかと、できることをできる人からはじめようというコンセプトではじまった。現在、定期的に宿題を見ているのは、学校の管理職の先生方、学校運営協議会委員2名であり、これまで3名の教職課程の学生が数回にわたり参加をしてくれた。宿題を教えるなかで、子どもの勉強の仕方、学校での勉強の在り方など考えさせられることも少なくないため、今後も多くの学生に参加を呼び掛けたいと考えている。